

「人生の交差点」～無料のタウン誌です。ご自由にどうぞ



Life Crossing

人生・生活・命の交差点／季刊（創刊2001年）

2026年夏・85号

信条・世に媚びず ・ 枠にとらわれず
・ 言いたいことはハッキリ言おう

発行／馬場 雅夫

FAX：06-7879-6372

〒110-0015

東京都台東区東上野 3-26-10 FC204号

URL：https://lifecrossing.ne.jp/

E-mail：info@lifecrossing.ne.jp



5月3日今年の憲法集会は有明防災公園で主催者発表5万人～（昨年3万8千人）が集った。高市軍事優先路線に危機感を持って初参加や若い女性が目立った。来年の5月3日は？ メーデーに代わる初夏の祭典で思い思いのスタイルで参加。

CONTENTS

世の中・社会・文明・歴史・家族・自分のことを書いています。

- 殺傷能力のある兵器の輸出に反対します
署名運動に参加して下さい 長崎県 清水 まり子…2
- 5月3日憲法集会 IN TOKYO KOTO ARIAKE ……3
- 戦争被害受忍論の克服をめざして 空襲被害者救済法の成立を
全国空襲被害者連絡協議会 運営委員長 黒岩 哲彦…4
- 世界遺産登録 大阪古市古墳群を歩く
大阪中央区 原野 道有…5
- 出羽の国の小さな物語 東京練馬 阿部 敏夫…6
- 人々の小景⑨ 市川崑 尽き果てる事のない光と影を映し撮った監督
鎌倉 市川 隼…7
- 第11回 宇宙生命哲学者大いに語る ハンブルグからの訪問者
北里環境科学センター名誉顧問 神奈川県相模原市 伊藤 俊洋…8
- コンサル依存の第2世代地方創生交付金の虚実
信州小海町議員 渡辺 均…9
- 東京、中野サンプラザ 利活用をあきらめない
中野のまちづくりを考える会 十川 百合子…10

- 中道改革連合
進むも地獄、退くも地獄。同じ地獄なら
進んで茨の路を拓きませんか
東京江東 三田 栄考…11
- ぶつかり合うことで、社会とつながる
～車いすラグビーの現場から～
福岡県議会議員立憲民主党 坪田 すすむ…12
- 中道改革連合の意義について
江東区議会議員公明党 石川 くにお…13
- 力と正義について考える
漫画『ダイの大冒険』から学んだこと
大阪 田淵 豊…14
- 読者のひろば／余録／編集後記……………15
- 沖縄を知ること
沖縄の問題は私たち日本人全員の問題である
沖縄県糸満市 平和ガイド 井出 佳代子…16

毎号表紙を飾る写真を募っています。単なる風景ではなくユニークなものを歓迎します。



視点

殺傷能力のある

兵器の輸出に反対します

署名運動に参加して下さい

署名活動の主旨

今年2月28日、米国イスラエルによるイラン攻撃で、イラン南部の女子学校をトマホークが誤射し、175人の女兒が一瞬にして死んだという報道がありました。もし仮にこのトマホークに日本の企業が関与していたとしたら：想像してみてください。

戦後80年、日本は一人の外国人の命も直接奪うことなく、平和と繁栄を築いてきました。このことは、日本国民としての大きな誇りであり、私たちの進むべき道を示すものです。もし、私たちがこの道から外れ、殺傷力ある兵器を輸出することになれば、イランの女子校のような事態―即ち日本製の兵器によって世界中で無辜の人々の命が失われる可能性が生まれるのです。それは、私たちの子孫に受け継がせるべき未来とは言えません。日本政府は、今まさに殺傷

能力のある兵器の輸出に踏み切ろうとしています。

振り返れば日本は第二次大戦後それまでの軍事国家から敗戦を機に憲法9条をもとにした平和国家として再出発し、兵器製造はせず、もしくは抑制し、進んできた戦後の歩みがあります。半世紀近く、武器輸出三原則のもと抑制的に歩んできた日本政府は、2014年それを破棄し、防衛装備移転三原則のもと、救難、輸送、警戒、監視、掃海の5つの用途に限定して兵器を輸出してきました。

しかし今回その5つの制約を破棄し、これからは殺傷能力を持つ兵器をも輸出しようとする動きがあります。企業に税金を使って人の命を奪う兵器をつくる、これは日本が第二次世界大戦後の平和憲法の下で守ってきた平和主義の存立危機事態です。

私たちは、このような動きに反対し、日本の誇りある平

和遺産を守りぬきたいと思えます。私たちの声を政府に届けるため、この請願に署名してください。

賛同していただける方は左のQRコードを携帯で読み取り、署名をご送信ください。

※後日武器輸出反対ネットワークさんの活動を知りました。



QRコードの読み取りが上手いかない場合、検索窓で「changecorj 清水まり子 武器輸出三原則」と入力ください。

<https://corj.mTPhFqx9Kn>

和遺産を守りぬきたいと思えます。私たちの声を政府に届けるため、この請願に署名してください。

賛同していただける方は左のQRコードを携帯で読み取り、署名をご送信ください。

※後日武器輸出反対ネットワークさんの活動を知りました。

傷力ある兵器輸出にまで拡大することに9条の内堀が完全に埋められるという危機感を抱きます。しかもこの憲法の基本精神に反する重要政策に関し、国会の審議なく、閣議決定と国家安全保障会議という少数のメンバーで決定することへの深い違和感もあります。

私は、親の戦争体験を家庭で聞いて育った世代です。母は中国東北部（満州）から4人の子どもを連れての引き揚げ経験を持ち、父はシベリア抑留からの生還者です。母はその凄絶な体験から「戦争は絶対してはダメ」と口癖のように常日頃話していました。

こうした個人的な思いと同時に、80年前の太平洋戦争において日本では376万人（推計）、アジアでは2000万もの人々が命を奪われていることを改めて思います。すべて日本が戦争を起こさなかったら死ぬことのなかった命です。一人一人の命には、戦争がなければまっとうできた人生の営みが詰まっていたはずですが。

その2370万余の命と引き換えに、日本の9条はあります。さらに言えば全世界で6000万ともいわれる当時

の死者の命と引き換えにあるとも言えます。9条の重さは計り知れず、その重さの上に戦後80年の歩み、また今を生きてすべての人の人生があります。

日本の平和主義の根幹に歴大な死者の声なき声があり、それ故に今ある平和的生存権をゆるがせにすることはできないと強く思います。

厳しさの増す国際環境から私のメッセージには賛成できないという声もいただいています。しかし原則としての平和主義を掲げ続けること、それは決して一国平和主義ではなく、世界史的重要性を帯びていると思います。「人類文化の理想は平和にある」と9条成立に貢献した鈴木義男は言います。

厳しいからこそ平和構築になお一層奮闘努力することが日本に課せられた使命だと思います。国土に多数ある原発を前に、もはや日本は戦争などできる条件ありません。

日本は平和の原点に立ち続け、軍需産業を育てるより、平和外交に徹し、農業に教育に医療に環境問題に、優先すべき日本の抱える課題に政治は取り組んでほしいと切望します。

当誌に協力要請あった読者が既寄稿メンバーの清水まり子さんの趣旨に賛同し掲載させていただきます。有志の方はクリックしサインして送って下さい。高市政権が閣議決定した後も抗議活動を続け何らかの方法で政府に届けるそうです。不手際があれば当誌までメール下さい。



今年の憲法集会は高市首相の改憲意欲に危機感をもった多くの人々が参加。本誌は2人の方に寄稿を依頼しました。

5・3憲法集会で見えた危機と希望

市民連合葛飾メンバー

井上悦子

主催者はクラウドファンディングが目標の500万円を大きく上回る1158万円と発表された。このカンパが集会を支えた事実は、平和の基盤が揺らいでいる現状への、市民の切実な危機感を示している。昨年の3万8千人よりも遥かに多くの5万人が有明防災公園に集まった。会場に

は多くの参加者が工夫をこらしたのほり、プラカード、垂れ幕などが林立した。その多くが9条を守ろうとのスローガンでした。私が改めて憲法9条は国家権力の暴走を食い止める強力な「ブレーキ」であることを知った。憲法9条を「空想にすぎない」と冷ややかに見る人もいるかもしれない。

しかし事実はまったく逆だ。戦後80年近く日本が他国と直接銃火を交えなかったのは偶然ではない。「戦力の不保持」「交戦権の否認」を定めた9条が、自衛隊が海外で戦争する軍隊へと変わるのを防ぐ「絶対的な縛り」として機能してきたからだ。憲法とは、国民が国家に「二度と戦争をさせない」と命じた、命を守るためのルールである。

しかし今、高市政権下でこのブレーキが壊されようとしている。防衛費が倍増される



一方、医療・介護の予算は削られ、「武器輸出入禁止」という国是も事実

上撤廃された。私たちの血税が軍備に吸い上げられ、日本が「他国の死で利益を得る国」へと変わりつつある。

つながろう

憲法いかして平和な世界を!

村山談話の会

加藤弘吉



左から木村、足立、吉岡、海渡の各氏と司会の藤田高景氏(村山談話の会)

兵を拒否する手紙の形式で、「平和への切実な願いを歌った詩です」と紹介された。自分が生まれた年に発表されたものが、現在でも当てはまる詩であることに正直驚いた。そして現在の状況が当時と酷似していると理解できた。

さんから、辺野古基地建設と南西諸島の戦場化を許さない!として生の沖繩の声を訴えられた。また、最後に飛び入りで若者(女性)3人が、山手線一斉スタンディングの呼びかけ人の海野さん、反貧困ネットワークの渡辺さん、学費問題に関連して、外国人への教育機会や権利の観点から差別・排外主義への反対も表明して活動している金澤さんから発言があり大きな賛同の拍手があった。

三番目は足立昌勝(関東学院大学名誉教授)さんから国家による情報の管理と諜報活動を推進する国家情報会議と国家情報局の創設に反対しようと呼び掛けられた。安倍政権下での特定秘密保護法制定以降に内閣情報局も新設され公安警察も強化されて日常での監視活動が広く実施されており国会前での抗議活動は蛭まず違憲は違憲とならぬものはならぬと活動を続けると力強く主権者として国家情報会議と国家情報局の創設に反対しようと呼びかけられた。

四番目は木村辰彦(沖繩一坪反戦地主会関東ブロック)さんから、「やかましい」と発言をした政治家への抗議をプラカードで表現する参加者



(右写真)「やかましい」と発言をした政治家への抗議をプラカードで表現する参加者

東京大空襲訴訟

原告団は
「平和憲法の実現と真の平和を願ひ」
訴訟に臨んでいます。



画 佐藤良助

東京大空襲訴訟は空襲による民間人が、国を相手に集団訴訟した初めての裁判です。国から66年も放置されてきました。

戦争被害受忍論の克服をめざして 空襲被害者救済法の成立を

全国空襲被害者連絡協議会 運営委員長 黒岩 哲彦

日本軍による重慶爆撃（1938年12月から1943年8月）

私たちは日本軍による加害の事実を直視しています。中国側資料（重慶抗戦記事）によると、日本軍は5年近くの間、に218回の空襲で延べ9513機が来襲し、投下された爆弾は2万1593個、破壊家屋1万7608棟、死者1万1889人、負傷者1万4100人とされています。

東京大空襲の首謀者のC.E.ルメイ将軍

ルメイの思想は、徹底的な破壊で、敵の戦意を奪い、一気に決着するという現在のアメリカ軍の軍事作戦の根幹です。1945年3月10日の東京大空襲で爆撃方法を高高度爆撃から低高度爆撃に変更しました。1943年3月、ユタ州ダグラススウェイ実験場で焼夷弾による一連の秘密テストを行い、典型的な日本の町を細

部まで正確に模造し、実物と同スケールで日本の市街を建設して燃焼実験をしました。

日本政府と裁判所は「戦争被害受忍論」に固執して被害者への補償を拒否

最高裁判所1987年6月26日の名古屋空襲訴訟の判決で「戦争犠牲、戦争損害は、国の存亡にかかわる非常事態のもとでは、国民のひとしく受忍しなければならなかったところであって、これに対する補償は憲法の全く予想しないところ」として、民間空襲被害者の救済を拒否しました。

「立法での解決」を明示した東京大空襲訴訟・東京高裁判決



（右写真）大空襲で焼け野原、隅田川の向こうが江東方面、手前は中央区

東京大空襲の被害者は「戦争被害受忍論」の克服・国家補償責任を訴えて訴訟を起しました。2012年4月25日東京高等裁判所判決は「国民自身が、自らの意思に基づいて結論を出すべき問題、すなわち国会が、様々な政治的配慮に基づき、立法を通じて解決をすべき問題」としました。

超党派空襲議連の空襲被害者救済法案は「戦争被害受忍論」の克服を明記

裁判所の「立法を通じて解決をすべき問題」との指摘を受けて、2015年に国会に与野党議員による超党派空襲議連が発足しました。2025年6月19日議連総会で「特定空襲等被害者に対する一時金の支給等に関する法律案概要」を確認し、前文は、「我が国の法律で初めて戦争被害受忍論の歴史」と「戦後八十

年の時を迎えるに当たり、我々は、恒久の平和の実現への決意」を明記にしました。

戦後80年、空襲を経験した人も戦争孤児など2世の世代も高齢です。

今の特別国会での成立をめざして全力をあげています。

（当誌）空襲被害者の救済法の制定を、自民党の平沢勝栄議員や高市総理の最側近たる松島みどり議員らに働きかけているとは聞いたが。全国空襲被害者を救済できる？建物の被害は？いや、亡くなった人も救済？そんなことができるのだろうか？被害の範囲はキリがないのではないかしら？しかし国策で被害を受けたのだから救済を求めるとは理がある。裁判所の「国の存亡にかかわる非常事態のもとでは国民は等しく受忍しなければ」も分かる気がする。が、政府が国民の同意求めることなく始めて過酷な被害を与えたのだから補償すべきとも思う。そんなことまで国が補償したら国家が持たないとも言えよう。石破前首相も前向きで被害者一人に付き××万円の家も出ているとか。ハテサテ救済法案の行方は、救済を求めることが戦争や軍事を防ぐことになるかも知れない。

特別国会で何としても空襲被害者救済法の成立を

世界遺産登録 大阪古市古墳群を歩く



大阪中央区 原野 道有

仲姫命陵（応神天皇后）の礼拝所

世界一広大なお墓、堺の仁徳天皇陵を読者はご存じだろう。127基もの古墳群が大坂平野の東南の地、古市にあることを知っている府民はそう多く居るまい。

4月のある日私は近鉄南大阪線の土師（はじ）ノ里駅に降り立った。案内看板に駅名の由来は古墳や埴輪を作った職人土師が住んでいた地だからとあって納得した。往時に古墳造成センター（センターとは呼称しまいが）もあったとか。

直ぐに駅の北側允恭（いんぎょう・第19代）天皇陵を15分ほどかけて一周する。濠の周りに背丈ほどの鉄柵が奇麗に続いていった。古市では4番

目の大きさだ。

土師ノ里に戻ると交差点の向こうに小山があつて石段を登って四方を見渡す人が見えたので私も続いたがこれも古墳で鍋塚古墳だ。続いて仲姫命（なかつひめのみこと・応神天皇后にして仁徳帝の母）陵に向かう。気が付くと前にも後ろにも地図のペーパーを片手の古墳群巡りの人々が続く。さすがに子連れや若い人は見当たらないが、皆さん思い思いの出で立ちでさつさと次の目的地に向かう感じだ。

濠の向こうの御陵は雑木林ばかりで知らない人には小山にしか見えないだろう。前方後円墳は日本独特とか。他の方墳、円墳は分かるがもう一つ帆立貝形墳（円墳と小さい方墳）があると図示されていた。濠に添って逆回りで進むと人々が右手の草原の丘に登り始める。私も転ばぬように続くと中年の女性は平な所でお茶のみ休憩していたが、さすがにシートを敷いたり弁当を広げる人はいない。

丘と言っても小室山古墳、赤面山古墳、大鳥塚古墳と続いているわけだがいずれも木はなく、我々は墓の上を歩い

ているわけだ。いよいよお目当ての当地で最大の応神天皇陵（第15代）だが在位4世紀後半〜5世紀前半——日本書紀ではこの程度しか不明）が見えて来た。

日本で二番目の面積だが土盛した体積は仁徳陵よりも大きいと随所に強調されていた。



左の大きな古墳が応神天皇陵
遠くに見えるのが仲哀天皇陵

もしかしたら世界一大きなお墓かも知れない。遥拝所の入口に宮内庁の説明看板があった。奇麗な参道を進むと右手に宮内庁の陸墓管区事務所・書陵部の建物があつてドアー越しに覗くと会議室等があった。

水飲み場を過ぎると数人が手を合わせている広くて整地された遥拝所に着いた。眼前の濠の向こうに小山が、いや圧する大山が私と対峙してい

た。天皇崇拝の右翼かとおぼしき数人は合掌してキチンと腰を落として礼をして引き揚げて行った。次への途中の葛井寺（何故だかFujiiと読む、藤井寺市名の由来のはず）は藤の花祭り、ボラントアの案内人が答えてくれた。

「古市古墳は3世紀後半から6世紀前半だが、何故この地に多数作られたのかは諸説あつて不明。日本書紀から推定すると応神帝の都は河内、藤井寺の説もあるが特定できてない。最初の古墳は最北端の津堂城山古墳で室町時代に城に転用されたりして大きく変容していて主も特定（治定じじよう）されていない」そうだ。

次の仲哀天皇（第14代）陵に向かう。近くに藤井寺市営アイセルシエラホールなる古代舟形をした奇妙な建物の2階の展示場に寄ってみた。ここで私が何となく抱いていた疑問が解けた。係の人に「古墳ができた時はどんな状態？今のようには雑木林？」「とんでもない」と案内してくれたのが写真のジオラマだ（下段写真）



アイセルシエラホールにある古墳竣工時のジオラマ（推定模型）で草木は見えない

2段、3段に分かれ表面は縦横に中石が区分けに並べられてその中の小石が敷き詰められていた。くびれ部分に造出（つくりだし）たる、式場があつて、階段で上に登れる。地中深くの玄室に墓主棺が納められていた。それがどうして今の雑木林に？説明のパネルがあつて合点した。「竣工当時は墓守などが保守をしていた。しかし宮廷がその手間暇を掛ける権力を失うと次第に雑草が生え、鳥、昆虫などが栄養を運び木々の種が飛んできたりで人手を加えないままに放置され千年以上の歳月が現代の雑木林と化した」と。ナルホドこれで何となくこれまでの胸の支えが下りた。仲哀陵は広い濠を隔てて3羽の白鷺が堤で白い羽を休めていた。時計回りに私は藤井寺駅への帰路に就いた。

企業家で詩人の阿部敏夫が迫る

『あの日、この事』第14回

出羽の国の小さな物語

東京練馬 阿部 敏夫

私の郷里は山形市の隣町「山辺」である。当時の人口は約八千人。前に奥羽山脈、後に出羽丘陵を背負って風光明媚な高台の町である。実家は城跡にあり黒い板塀に白壁の大きな家だ。

それがある日突然墨を塗られて汚い壁になる。母親に訊くと空襲を避けるためだと言ふ。そういえば岩手県釜石製鉄所向けの米軍艦砲射撃の音は奥羽山脈を越えて耳に響いたのを今でも忘れない。国民学校入学前の記憶である。

歴史は何処からが必然で若手の過ちはどの程度なら許せるかを探ってみよう。

出羽山形を語るとき欠かさないのが最上義光あろう。

仙台伊達が米沢にあった頃、婚姻を結び最盛期には54万石とも57万石ともいわれる東北地方の太守になる。

山形城の近隣には山辺城、畑谷城、寒河江城、上山城、天童城などがあり、それぞれの独立性を維持していた。中でも山形城は広大で城跡は再建されたごく一部をのぞき、公園として、その名残をとどめている。

山形県の中でも現代まで続いた上杉米沢藩、庄内藩と違つて、最上藩は長くは続かなかった。そのためもあって私が高校生の頃までは社会科の先生も郷土史にはあまり触れなかった。

山形県の中でも米沢、山形、鶴岡を中心とする気候風土、とりわけ人情、美意識には大きな隔たりがある。中でも米沢衆と言われて別格なのが米沢だ。二代目上杉景勝の執政直江兼統が上杉家を維持し上杉家の名声を守り続ける。

ケネディ大統領が「尊敬す

る日本人は」と問われたとき、上杉鷹山と答えたのも、一役買っているのかも知れない。そう言えば山形県と称される前に米沢県と言われた時代もあった。幕末に新政府軍に激しく抵抗した米沢藩を県名とするには関係方面から圧力が働いて無難な山形県になったのだとか。政治は常に無難な落としどころを探す。



※上杉治憲（鷹山）像
米沢市・上杉神社境内

米沢の魅力

縁があつて米沢市の隣町、川西に小さな工場を造つた。一千坪の敷地に百五十坪の平屋建ての工場である。その縁で米沢市在住の町役場の職員や近隣の町民に知人が多くなる。米沢市や小松（川西町の旧名）の歴史が自然と耳に入る。川西町は小説家の井上ひさし氏の出身地でもある。井上家は代々続く造り酒屋

で「樽平」のブランドは現在も愛好家に根強い。

この町での印象的な出来事の一つ。月に一度の工場訪問の折、思い立って商店で漬物を買ったら対応の女性は「価格がわからないから」とのこと。「あいにく嫁が出かけているので」と申し訳なきそうに言う。そして「支払いはこの次で」とほほ笑む。私は「東京から来ているので地元の町民ではないから」と言つても「次の機会がいいから」と繰り返す。

米沢市の街道沿いに戸板の上に野菜が置いてあり、紙には値段が書いてある。「支払いは箱の中に」と無人の自動販売だ。人家とも見当たらない場所ですら自動車を目当てで商売だろう。それにしてもこの地域の人に対する信頼感に驚くばかりだった。いずれも30年前の話。

世子がなく15万石にまで落ちた上杉家は高鍋藩主秋月家の次男を養子に迎える。治憲が藩主上杉重定の養子となり政権の座につくのは明和四年

17歳の時だ。

上杉景勝が会津藩主の時代120万石の大封だったのが西軍に味方をし徳川家康を敵にも回して30万石に減封で米沢に入る。このとき藩士5000名を全員解雇しなかったのは有名な史実。そのため近隣を含めて大工をお大工様と敬称付きで現代でも呼ぶのは困窮した藩士が大工仕事をしていたからとか。

上杉治憲が江戸から細井平洲を呼んで藩内の教育につとめる。治憲の評価が今でも高いのは、その後、号を鷹山と称したからだけではなはない。財政再建と藩政に成果を挙げたからだ。



山形城・東大手門と山形新幹線

人の景

連載
第29回

映画監督 市川 崑

尽き果てる事のない光と
影を映し撮った監督

鎌倉在住 市川 隼

異才の映画監督伊丹十三（1933-1997）に師匠と仰がれた市川崑（1915-2008）は、1969年に結成した四騎の会の黒澤明（1910-1998）、木下恵介（1912-1998）、小林正樹（1916-1996）共々、日本の映画文化を背負って走り続けた映画監督の一人と高い評価を得ている小津安二郎（1903-1963）は幼少期を三重県松坂で過ごしたが、市川も三重県宇治山田に誕生し、4歳になってからは、大阪、

京都、広島で幼少期・青年期を過ごす、日本を代表する二人の映画監督が、三重県と関わりを持つ事になった。

市川は画才に秀でて、画塾に通い、絵の才能が評価されて、後に東京京都撮影所となったJ.O.スタジオのトーカー漫画部に採用されたのが18歳の時で、今ではアニメーションが日本映画の柱を担っているが、市川は、漫画映画から映画界に入り、監督の座まで上り詰めた数少ない経歴の持ち主だった。

当時は、漫画映画は脇役であり、実写映画（一般映画）の興隆と共に整理の対象となり、市川は実写部に移り、ハリウッドで俳優経験があり、映画製作技術を身につけて帰国した阿部豊監督に師事し、23歳の時に東京の砦に転籍し、監督作品一号となったのが、新東宝で制作した1948年の『花ひらく 眞知子より』であり、師匠の阿部豊がプロデューサーを務めた。市川は様々な映画作品を手掛けた。映画の職人を地で行くように、時代劇、文芸作品、喜劇作品、スリラー作

品、アニメ作品、スポーツ作品を制作し、どれも一級の作品として評価を得ているが、市川の映画人生で転機となったのが、妻となった和田夏十が脚本家として市川映画を支えた事と、1965年の『東京オリンピック』の制作だったと云えるのかも知れない。



市川崑と和田夏十 (HP)

和田は通訳・翻訳家として東宝に入社したが、戦後の東宝の労働争議で映画制作が困難になった時代に遭遇し、市川と共に東宝を離れるが、意気投合した二人は市川の監督第一号作品完成後結婚し、市川の指導で脚本家の道に進み、優れた才能を活かし、1951年制作の『恋人』からは和田夏十が脚本を担当し、市川映画の幅を広げた。

市川が依頼されて引き受けた『東京オリンピック』は、今まで経験のしたことがなかったスポーツ分野の映画制作となったが、新しい人材として、詩人谷川俊太郎をスタッフに招き、勝敗中心の単なる記録映画に留まらず、スポーツ選手の身体から発散される迸るエネルギー、一喜一憂する選手や観客の表情、オリンピックに沸く東京の街角の人々をカメラに収め、スポーツ映画を超えた、社会と結びつく人間賛歌を描いた作品を創り出した。

『東京オリンピック』制作以前の作品で評価を得た作品は、『ビルマの竖琴』、『炎上』、『鍵』、『おとと』等があり、以後の作品で評価の高かった作品には、『細雪』、『四十七人の刺客』、『どら平太』、『かあちゃん』等が挙げられる。『炎上』は三島由紀夫の『金閣寺』を映画化した作品で、市川を評価する三島は、惜し気もなく数冊の創作ノートを市川夫妻に提供し、映画制作に協力したとされる。市川雷蔵が好演した、吃音に悩み、金閣寺の美の虜になる青年の心の動きを、市川

崑は巧みに映像化したのが、実際に放火事件を起こした青年僧、三島の原作に描かれた青年僧の、金閣寺に火を放った夫々の三人の葛藤は同一だったのか、それとも異なっていたのか。



キネ旬ムック

今更何故映画化と、病床にあった和田が訝った谷崎潤一郎原作の『細雪』では、戦前大阪船場旧家・四人娘の生き様や、女性達に翻弄される長女・次女に婚入りした頼りなげな二人の男達が描かれた。崩壊しつつある旧い家族を描きつつ、力強い女性達の社会への到来を見透かした、市川崑が敢えて描いて見せた「光と影」だったと云える様だ。



宇宙生命哲学者大いに語る(第11回)

ハンブルグからの訪問者

北里環境科学センター名誉顧問
神奈川県相模原市 伊藤 俊洋

なければならぬ。そうでなければ、日頃の努力は単なる自己満足であり、何の役にも立たない無用の搾取である」と断じている。

「宇宙生命哲学」は、地球上に現存する生物の一員である人類のひとり一人が、宇宙における立ち位置と役割を踏まえ、尊厳を持って生きるための哲学である。

この哲学は、多くの友人や学会の仲間によって支えられ、進化してきた。海外の大学では、中国・瀋陽薬科大学、大連外国語大学、内蒙古農業大学などで「宇宙生命哲学概論」の演題で、単位の伴わない特別講義の形で講演してきた。

2019年に、福岡で開催された国際極限環境生物学会でも「地球は高次元巨大環境生命体である」との演題で当哲学を紹介してきた。

定年退職後は、これらの経歴を基にして「宇宙生命哲学」という新しい哲学を提唱している。

北里大学の学祖である北里柴三郎は「学問・研究は人類の生活に役立つことを目指さ

Mさんは極限環境生物学会の会員だった

友人のMさんは、ニューヨーク在住の日本人女性で、極限環境微生物学という領域の学会で親しくなった。

この学会は、温泉・火山地帯・深海熱水噴気孔・塩湖・極地などの、人が生きて行くには不適切な環境で生きていく生物について研究する学会である。学会行事が地球上の秘境と言われる場所で開かれることもある。

Mさんは、人生の半ばで、生命科学の研究者から子供の教育システムの開発に転向された後、老年学の修士号を取られ、現在は、在米日系高齢者の介護ボランティアなどにも挑まれている。Mさんは多くの国に足跡を残され、多方面にわたる友人と親しくされている。

Mさんは「宇宙生命哲学」の本質を深く理解され、海外の友人たちにもその概念を広く拡散して下さっている。2025年の7月には、ハンブルグ在住のドイツ人夫妻と共にサイエンスカフェ・コスモスにきて、一泊して下さった。Mさんと同年代のご夫婦

は共に60代で、夫のKさんは地球環境の磁気・磁場・磁力線などを測定する生粋の環境科学者である。妻のUさんは、精神セラピストとしてクリニックを経営している。子供たちが独立し、二人は仕事を続けながら世界を旅し、見聞を広めておられる。

旅を満喫する人生の達人たち

当日、旅慣れた三人連れが、大型バックパックを背に玄関に現れた。ご夫妻は、今回、日本は初めてだそうだが、すでに熊野古道の半分を踏破されてきたので、日本での生活にも慣れておられるようで、不自由さはみられなかった。箸の使い方は練習してきたと、Kさんはその成果を嬉しそうに披露された。

カフェの庭にセットした地球と月の模型、雨水を利用したビオトープ、自宅近くの「地球人公園」、地域住民の交流の場である「自治会館」、自宅の屋上のトレーニングスペースなどを案内したのち「宇宙生命哲学」のレクチャーをした。演示実験も交えて、地球上の生命現象は、基本的に化学反応であり、地

球上の全ての生命は、原子論的には過去から現在へ、さらに未来へ継続する高次元巨大環境生命体の構成員であることを述べた。

現在の地球上では、ウクライナ情勢や、ガザ情勢の惨状を見るに付け、現在の人類にとって「地球人」という概念が必要であることを強調し、共感を得ることが出来た。

「宇宙生命哲学」を説明するときの必須教材であるアースボールをプレゼントすると、ハンブルグのオフィスに飾ると、大変喜んでくれた。翻訳機の性能が向上したとはいえ、近い将来、少しはドイツ語を学んでから、ハンブルグを訪れたいものである。



(前列右から) Kさん、Uさん
(後列右から) 筆者、Mさん
サイエンスカフェ・コスモスの庭で

※本稿は、タウン誌「たのし、2026年1月270号4頁」を補筆し、再構成したものです。

一介の地方議員奮闘記(第6回) コンサル依存の第2世代地方 創生交付金の虚実

信州小海町議員 渡辺 均



30数年間コンサル稼業で飯を食い、ある現場でコンサルは口ばっか、という誹りをリアルに受け止め、現場で口にしてきた地域づくりのノウハウとやらを、自らの故郷で実践することにした。

そこでも見たものは、もはや手遅れ感を否めない中山間地の自治体の交付税(金)を巡る現実である。

『地方を元気にする』というお題目の下、地方創生・第2世代交付金制度が導入され、地方行政に大きな資金供給を約束している。

そこでは、『地方が特性に応じた発展を期し、日本経済

の起爆剤としての大規模な地方創生を講じるため、自主性と創意工夫に基づく多様な主体の参画を通じた独自の取り組みを計画から実施まで後押しする」と記されている(内閣官房新しい地方経済・生活環境創生本部事務局、内閣府地方創生推進事務局・地方創生推進室のHPより) 揚げ足取り風に反論すると、先ずは(地方の特性に応じた)という言い草に対し、高度経済成長期以降、地方への対処法は、地方の個性を平準化し、均質化することに拠って2、3%という僅かばかりの成長を支えてきたのが、現実ではないだろうか。

地方の特性は今や産業/生産面よりは生活を支える衣食住に僅かに残されるほどになっっている。大量生産、大量消費型の経済社会を標榜し、コンビニなど大手資本による画一的な供給体制を自由競争の名のもとにひたすら押し進め、地方の生活文化を食いつぶしておきながら、今更何が地方の特性だ、と言いたい。

次に(日本経済の起爆剤)とはどういうことか、意味が分からない。地方の個性を一

方で平準化させながら、他方で日本の経済を起爆させることなど、誰が、どうすれば想像できるのか、(自主性と創意工夫に基づく多様な主体の参画)とあり、制度の建付けとしては、地方に総意工夫(ソフト面での発展図式の創発)を求め、自主/自発の取り組みを要請しているが、中山間地域には、そのような国の発展に活かせるような斬新で骨太の事業を組み立て、推進する知恵者や地域文化は残されていない。

結果、机上で構想された建付け、それを満たす手順、段取りは、手練手管に長けたコンサルに委託される。コンサルは、衣食住などの地域に残存する微細な生活・文化資源にスポットを当て、微細が故



に商品価値が高いと喧伝し、ブランディングなどという上滑りする目先の需要創造のテクニクを用いて眼鼻の利かない地元の事業者や行政担当者や煙に巻き、その対価として地域主導という建付けの下で用意されているソフト関連の経費の多くを掠めとっていく。

原因はソフト関連を担う多様な主体など、中山間地には残っていないからである。かのHPでは(多様な主体の参画を要請し、産業、自治体や

国の関係機関、大学など教育機関、金融機関、労働団体、報道機関など)が担い手候補に挙げられているが、例えば人口4千人ほどの我が町では、産業と言えは農業で、ここでは離農者と耕作放棄地が増大し、70才を越した高齢者が自家用野菜などを栽培、とても業(ぎょう)などと呼べたものではないし、自家用の非販売農家には、農業で国を起爆させるような力はとっくに失われている。

教育といっても小、中学校はもとより高校、大学に至っても入学志願者が減少し、すべからく存続の危機に喘ぐ現

状にある。児童、生徒から学生に至るまで、入学者確保に四苦八苦の地方の教育に何が期待できるのだろうか。期待できるとすれば、文科省の教育行政に一矢を報い、新しい教育理念を掲げ、これに賛同する教育移住者を受け入れる。孟母三遷型教育事業がある。これらは概して国の方針に抗した理念が掲げられ、国政に反することが逆に地域振興の実効性を高める皮肉な結果が示されている。

労働団体と言えは農協か森林組合で、いずれも補助金頼みの状況を抜け出せていない。金融機関は統廃合が顕著でATMに人材は不要である。このように、多様な主体という言葉に示される事業者は中山間地に存在せず、過疎と高齢者の町には論外の事業者である。

以上から第2世代地方創生は、言外に地方の農山村を除外した政策以外の何物でもないのだが、しかしこのような農山村にも潤沢に予算が配分され、コンサルが描く画餅に認められた第2世代型ハコモノ行政が蔓延る土壌を醸成しているのである。

東京、中野サンプラザ 利活用をあきらめない

中野のまちづくりを考える会

十川 百合子



4月1日付「中野サンプラザ解体が正式決定。区長「設計図がないので改修不可」2034年に「新複合施設」完成へ」というwebニュースを尻目に、私たちは3月までに集めた中野区長宛の署名を担当部署に届けた。

仕事やボランティアで忙しい仲間2〜3名で都合のつく夕方4時頃に中野駅北口や南口でマイクを手に呼びかけた。壊すのはもったいない。中野のランドマークだ。使えるものなら直して使ってほしい。などと署名してくださいと老若男女、皆様の姿が思い出される。

署名は1000筆には一歩届かなかったが一人一人の想

いが込められている。区は、今度は「設計図がない」という。昨年は「地下は黒カビだらけで修繕は困難」「上位計画であるグラウンドデザインversion3で既に解体は決まっている」どれも取り壊す理由になっていない。図面がない。正しくは竣工後の工事履歴が残されていない、ということだが、専門家によれば、設計図、竣工図、工事履歴が優等生のように揃っている事例は珍しいという。

実際に多くの歴史的建造物がそれなしでリノベーションされている。なぜ調査をしようとしなかったのか？私たちは、改修のための調査をしてほしいと言いつつ続けたが平行線である。グラウンドデザインは前区長時代2013年のものだ。社会情勢も区民のニーズも変化しているのに全く理解できない。

高いビルに上がるとすぐにサンプラザを探したが見る中野区民：サンプラザが見えるとなぜかワクワクする。よそから帰りサンプラザが見えると中野に帰ってきた！という安堵感。

中野の駅周辺では11の市街地再開発事業が進み、既に南側にはタワマンが建ち西の囲町にもタワマンが完成間近、新北口駅には今年暮れに開業予定で駅周辺は刻々と景観が変わってきている。

中野サンプラザと旧中野区役所の土地を一体化して再開発を進めてきたがこの部分の事業が頓挫し中野サンプラザは2023年7月に閉館されたままだ。



中野駅南口にて署名活動

頓挫した事業者案は都庁舎よりも高い262メートルの超高層と7000人規模のホールを含む巨大な複合施設を建てるというものだった。採算が合わず事業者は撤退した。

中野サンプラザは林昌二(日建設計、日本建築家協会

第三代会長)の設計によるもので1973年に「全国勤労青少年会館」として開館した。地方から上京した働く若者を支援する施設で、また地域文化の発展にも寄与してきた象徴的施設で、独特の三角形のフォルムは誰もが知る中野のランドマークとなっている。

とくに2222席のホールは、国内外のアーティストにも人気の高い都内でも希少なコンサート会場だ。百年二百年もつように造られた構造物ゆえ、設備の更新も可能だし、時代に合った用途変更も可能なはずだ。

今年度も予定通り区民の意見を聞く会が開催されるらしい。しかし、サンプラザを解体することに関しては1ミリも変わっていない。区に「新しい計画には何がほしいですか？」と聞かれると、区民は〇〇があるとよい。〇〇がほしい。：それって中野サンプラザをリノベーションすれば叶うのでは？

昨年11月には建築再生研究会による「中野駅新北口エリアの可能性」シンポジウムが開催された。全国で古い建物



中野サンプラザ

の再生を手掛けてきた専門家がさまざまな事例を紹介し中野のまちづくりにヒントを与えて下さった。「壊して建てる」はもう時代遅れだ。良い案が出るまで、とりあえず壊さずに、安全を担保した上で可能な部分のみ使うという、暫定利用の考え方もある。シンポジウムでは暫定利用の成功事例も紹介された。近々、シンポジウムPart2が開催される。区は、ちよつと立ち止まってこのような選択肢もあることに気づいてほしい。耳をふさいではおしまいだ。建物を失う前に改修の可能性も含めあらゆる選択肢を比較検討すべきではないか。

次の世代の中野にとって最もふさわしい形とは何かを、文化的ビジョンを持ちながら独自性、地域性を大事にした中野ならではのまちづくりが望まれる。

進むも地獄、退くも地獄。同じ地獄なら 進んで茨の路を拓きませんか？

東京江東 三田 栄考

1プラス1が2どころか1にもならず、憲政史上最大の大惨敗で中道はいや立憲民主党は崖っぷちである。

そりゃそうだろう、この間まで政権与党で、立憲にとつては攻撃続ける相手だった公明党だ。選挙目当てに5人の幹部だけで表面だけの調整で合併してしまったのだから。政党にとって命である政策も擦り合わせが充分できていなかったから問題や矛盾が噴出してきている。参議院や地方議員、ましてや両党組織の統一は夢の又夢だ。正に前に進むも地獄だ。

それでは潔く御破算にして中道は解体して完全に両党に戻したらどうだろうか。いや、幸い完全解体の主張・意見は全く無い。退くのも地獄と誰もが承知しているからである。統合前の両党はこのまま行けば衰退の一途を辿ることが明らかだった。

公明党は学会員の高齢化もあって長期低落してきた。参

議院比例区は凋落し小選挙区では単独で当選者は皆無だ。連立政権党故の存在価値を維持していたがその頼みの綱も覚悟して自ら断ち切ってしまった。

他方、立憲も維新にやられ、国民にスタスタにされ、参政に追い詰められ、みらいにも追いかけられた。自ら活路を開く能力を発揮出来てこなかった。その両党が天下国民に合体を宣言しておきながら今更もうやめますでは国民からソツポを向かれるのは火を見るよりも明らかで、消滅するのが予見されるからだ。

今後も完敗続けて 良いのですか？

そこであなたに聞きたい。何故政治に関心を持ち、政治参加するのか？時の政権にノーと言いたいからか？自分の思い描く社会に進みたいからか？クレームを付けるのが目的か？良い社会を創りたい

からか？自己満足の活動か？政策を実現したいからか？反対！反対！と大声で言うのは自分は熱心に信念に基づき妥協しないで活躍しているとの思いは自己満足とも言える。



小川淳也中道代表が立憲民主党水岡俊一、公明党の竹谷と
し子代表らと会談。発信力を発揮してもらいたい

あんなに盛り上がった戦争法案も安倍首相に一指も付け指すことなく完敗した。我々は徒勞の闘いを続けてきたと書くとお叱りを受けるだろうが、もう何十年復古主義、軍事大

國、戦争参加、国家主義へ回帰するのを反対・抵抗してきたがいずれも阻止できなかった。古くは建国記念日・国旗・国家、国鉄、郵政民営化、防衛省に昇格、軍事費GNPの1%枠、その他数知れず。安倍の政治は許さない、と頑張ったが憲政史上最長を許した。

彼を倒したのは凶弾だった。安倍氏が目論んだ黒川検事長の検事総長を阻止したのは掛け麻雀の文春砲だ。残念ながら正攻法で攻めても基本的に敵は落城しない。これは肝に銘じておくべきだ。

理由は簡単、相手は多数派、反論理屈は幾らでもこねられる。政・財・官・メディアも彼らの方が遥かに優勢だからだ。我々の戦略は間違っていた、失敗だった。現在の

中道党は身動きが取れない。 その束縛を解け

立憲の政策と公明の政策、路線の違いを残したままの合併で、両方の支持者から批判を受けるつらい立場だ。

しかも中道・立憲・公明の鼎立状態だから指示、命令、リーダーシップを発揮できない。ましてや中道は議員だけで組

織はない、極めて力の発揮できない最悪の状態だ。幸い、公明党は庶民の党、福祉の党、平和の党を自任している。立憲とは本来共通項が多いのは確か。他の野党の如く独自路線にこだわることは少ない。

閉鎖的な体質があるのは否めないが、協議と交流を重ねることによって多くの国民に開かれた党に、中道党に転換してもらいたい。拙速を排して、多くの国民の納得できるオープンな協議で3党の提携を深めるべきだ。

我々の国家像を示し、軍事だけに頼る安保でなく近隣平和外交、恒久平和の為に世界連邦をめざすことだ。自民党に対峙（対決とは言わない）できる大きな塊を創り、周りに無党派、非関心、層を求め、過半数を結集することだ。それが95%以上の、非勝ち組の政権を、平和で格差の少ない社会を造るには道は遠いがこの路しかないと思う。

軍事バランスより、
人類恒久平和のための
世界連邦建設を！



ぶつかり合うことで、

社会とつながる

車いすラグビーの現場から

福岡県議会議員立憲民主党 坪田 すすむ



初めて車いすラグビーを目にした人は、驚く。「こんなに激しいのか」と。

車いす同士が激しくぶつかり合い、金属が軋む音が体育館に鳴り響く。その迫力は、障がい者スポーツに抱かれがち「優しさ」や「配慮」といったイメージとは大きく異なる。そこにあるのは、激しさと緊張感に満ちた、まさに競技スポーツの世界である。

車いすラグビーは、四肢まひ者など比較的重い障がいのある方々がプレーできるチームスポーツとして考案され、車いす競技の中で唯一「タックル」がルールで認められている競技である。障がいの程度に応じたクラス分けがなされ、その組み合わせによって戦術が大きく変わる。誰をどの局面で起用するのか、どのように防守を組み立てるのか。そこには、極めて高度な戦略性が求められる。

さらに特筆すべきは、この競技が男女混合で行われる点である。性別に関係なく同じコートに入り、同じ目標に向かって戦う姿は、まさに多様性を体現する象徴ともいえる競技である。

2026年度現在、国内で連盟登録されているチームは12チーム。北海道から沖縄まで、約120名の選手が全国で活動している。どのクラブチームにもレクリエーションとして楽しむ方もいれば、日本代表として世界を目指し日々トレーニングを積み重ねる選手もいる。一つのクラブチーム内に、多様な関わり方が共存している点も、このスポーツの大きな特徴である。2014年に私は選手と協力してFukuoka DAND E L I O N というチームを立ち上げ、しばらく代表者としてチーム作りに徹してきた。この競技の象徴的な成果が、パリパラリンピックにおける

日本代表の金メダル獲得である。世界の頂点に立ったこの快挙は、選手たちの血と汗がにじむ努力と、競技を支えるスタッフの皆さんの弛まぬ努力の結晶であることを示している。

しかし、車いすラグビーの価値は、メダルの有無だけでは語り尽くせない。この競技のもう一つの重要な側面は、クラブチームが「コミュニティ」としての機能を果たしている。



大会の一コマ
(C)MegumiMasuda/JWRF

ていることである。特に事故や病気などで中途障害となった方にとって、社会との接点を失うことは大きな課題である。その中でチームに所属し、仲間と出会い、役割を持つことは、社会復帰への大きな一歩となる。

コートの中では「できないこと」ではなく「できるこ

と」、そして「チームの中でどの役割を担うか」が評価される。守備に徹する選手、得点に絡む選手、流れを変える選手。それぞれが必要とされ、その役割を果たすことでチームに貢献する。この経験が、自己肯定感を育み「社会の中でも役割を持てる」という実感へとつながっていく。

活動を支える環境には、いくつもの課題がある

まず、練習場所の確保が容易ではない。体育館で行う競技だが、床が傷む心配から利用させてもらえない施設は限られている。また、練習試合や大会について、地方に拠点を置くクラブチームは必然的に遠征となる。チームを支えるスタッフは基本的にボランティアなので、遠征にも自費で付き添ってもらっているのが現状である。

さらに、競技用車いすは一台百数十万円するため、競技を始める方にとって大きなハードルとなる。加えて消耗品の交換やメンテナンスにも継続的な費用がかかる。競技の価値が高まる一方で、それ

を支える基盤はまだ十分とは言えない。

私たちはこの競技を「特別なもの」として見るのではなく、社会の一部として捉える必要がある。車いすラグビーの現場には、誰もが役割を持ち、互いに支え合いながら共に生きる社会の姿がある。それは理想論ではなく、すでに実現されている一つのかたちなのである。

私たちにできることは何か。まずは知ること、そして関わることだ。観ることから始めてもいい。その一歩が、社会を少しずつ変えていく。ぶつかり合う音のその先にあるもの。それは勝敗だけではない。人と人がつながり、共に生きる社会の可能性である。



TBS日曜劇場「GIFT」のひとシーン
タックルで相手の動きを封じる

中道改革連合の

意義について

江東区議会議員公明党 石川 くにお



真冬の衆議院選挙においては、中道改革連合として大惨敗を喫しました。ですが、比例区得票数は、1043万票を獲得しました。

超短期決戦において、中道改革連合としての「平和を守る・生活者ファーストの社会」の政策が浸透しきれなかった状況で、大きな期待感が持てないとの結果は、真摯に受け止め、反省点として、今後に生かしていかなければなりません。

今後、衆議院において、絶対安定多数の261議席を超える与党に対して、反発だけではない、正論を持って、歯止めをかけながら、政策実現に向けて、取り組んでいけるかが大事な局面であります。

平和を守る観点では、国際情勢が大きく揺れる中、自国を守る観点での政府の強引な取り組みを懸念しています。平和を実現していけるかどうか、理想ではない現実的な観

点での提案は大切な取り組みであります。単なる反対ではない、耳を傾けなければならぬ貴重な提言をどう行っていくかは、中道改革連合の使命であると考えます。与党が強い中だからこそ、その時に合わせた意義は、本当に大事であると考えます。

さらに、生活支援では、イラン情勢に伴い、国際的な原油価格が高騰し、原油輸入の9割以上を中東に依存する日本では、ガソリン価格が大幅に値上げされています。

さらに今後は、プラスチックの原料となる石油製品「ナフサ」などの供給が滞る可能性も指摘され、石油関連製品は、入手困難な状況が生まれており、建設資材の大幅な値上げはもう始まっており、

漁業でも軽油の利用を自粛し、様々な産業で停滞が起これ、これから先、原油高騰がさらに高騰していく状況を見据えると、さらなる産業への影響が推測でき、大変な状況

で取り返しがつかない状況に陥る可能性も指摘されており、

国際情勢を変えていくことは難しく、回避もできない状況であります。政府の答弁では、原油の備



渡辺創組織委員長
(旧立憲)

岡本三成政務調査会長
(旧公明)

早稲田ゆき副代表
(旧立憲)

中野洋昌幹事長代行
(旧公明)

山本香苗代表補佐
・実務統括 (旧公明)

小川淳也党代表
(旧立憲)

階猛幹事長
・選挙対策委員長 (旧立憲)

菊田真紀子議員総会長
・常任幹事会議長 (旧立憲)

重徳和彦国会対策委員長
(旧立憲)

浮島智子副代表
(旧公明)

蓄放出など、大丈夫を重ねていきましたが、先行きを見据え、周回準備をして、最悪な事態を想定して乗り越えるべきであります。

こうした取り組みができるのは、中道改革連合しかできないと考えます。各省庁を納得させる議論は、

与党経験が生かされ、党派を超えた経験も取り入れながら、国民生活を守ることを最優先していけると考え

ます。理想論だけではなく、現実を見据え、理想に近づいたための目の前の具体的な取り組みに期待をしています。現段階では、

小さな塊でありませんが、こうした労苦は、今後には必ず生かされると考え

ます。将来、必ず大きな塊となり、右左に傾かない国民を中心にしていく流れを確立していかなければならないと考えます。

公明党は、今まで、国や東京都、そして区と連携をしてきました。ネットワークを生かし、区民ニーズをつかみ、こうした声を大事に取り組みでまいりました。

中道改革連合になってからも、このネットワークは今も健在です。江東区民の皆様からの声をしっかりと掴み、国や都につなげ、また、国や都の状況も掴みながら、区にも生かしていく、この流れを今後も取り組んでまいります。

やってほしい政策要望は誰でもできます。議員として、要望を実現するため、知恵や工夫で、単なる要望ではなく、具体的な提案を行いなから、区の発展を目指し、それが、都道府県や国にも生かされていくよう今後も努力をしていく覚悟であります。

中道改革連合が、大きな塊になるべく、国民の期待感を持てるよう現場から支えていかなければならないと考えます。

これからも、頑張ってください。願いますので、どうか宜しくお願い申し上げます。

石川くにおプロフィール～江東区議会議員5期目。江東区出身、58歳。江東区議会公明党の幹事長を長年務め、区議会では、副議長や監査委員を務め、現在は新庁舎建設特別委員長を務めています。地域では、町会役員、PTA会長も経験。数多くの区民相談で、政策構築などの実績は豊富。現在は、新庁舎建て替えでの江東区のまちづくりに力を入れ、取り組んでいます。

力と正義について考える

漫画『ダイの大冒険』から学んだこと

大阪 田淵 豊

ええです。

子どもの頃に読んだ漫画『ダイの大冒険』。今でも心に残っているシーンがいくつかあります。その中から、特に印象深い二つを紹介したいと思います。漫画の話なんて：と思いません。漫画の話なんて：と思う方もいるかもしれませんが、勧善懲悪の物語は昔の時代劇から現代の作品まで形を変えて続いており、私たちが社会を考えるうえで大切なヒントを与えてくれるものだと思います。

力なき正義もまた無力

ひとつめは、心優しい少女戦士とその師匠の場面です。師匠が彼女に魔法の銃を渡したとき、少女は涙を流して訴えました。

「先生、私、こんなおっかない道具いりません！ 私はただ村の人を守りたいだけです」

それに対して師匠はこう答

ええです。

「あなたは本当に優しい人ですね。でもね、愛や優しさだけでは守れないときもあるんです。正義なき力が無力であるように、力なき正義もまた無力なのです」

これはパスカルの「力なき正義は無力であり、正義なき力は圧制である」という言葉を、子どもにも分かる形で伝えたいものです。理想や優しさだけでは人を救えない。現実には時に、守るための力が必要なのだと教えてくれるシーンでした。

力は正義なのか？

もうひとつは物語のクライマックス。世界を暴力で支配しようとする大魔王に、主人公の少年が立ち向かいます。

「お前の力がどれほど凄いかは分かっている。でも、力

こそ正義だなんて絶対に間違っている！」

すると大魔王は冷たく言い返します。

「魂だけでは余を倒せぬぞ。正義を語りたいなら、言葉ではなく力で語れ！」

こうして最後の戦いが始まります。ここでもやはり「正義を実現するには力が必要」という現実が浮き彫りになっていました。



現実の世界に重ねて

この二つのシーンは、単なる漫画の物語ではありません。現実の国際情勢にもそのまま当てはまるところがあります。

よく「軍備を強めれば相手を刺激して、軍拡競争にな

る」という意見があります。確かに一理あります。しかし逆にこちらが武装を控えれば、相手も同じように軍備をやめるのでしょうか。さらに「戦争をする気はない」と全面的に武装解除すれば、本当に攻め込まれないと言えるのでしょうか。

残念ながら、そう簡単にはいきません。ロシアがウクライナへ侵攻した背景には、ウクライナの核放棄が影を落としていると言われます。北朝鮮が体制を維持できているのは、核を放棄しないからだとも言われます。力を持たない正義が無力になってしまう現実が、そこに表れています。

また、中国ではウイグルやチベットが力で押さえ込まれました。国外へ逃れた人々は今も自由を求めて声を上げています。もし彼らに守るだけの力があつたら、歴史は違っていたのかもしれない。

力と正義のバランス

もちろん力さえあればすべて解決するわけではありません

ん。力に正義が伴わなければ、それはただの圧力や支配になってしまいます。だからこそ大事なものは「力と正義のバランス」です。理念だけでは現実を動かせない。かといって力だけでも人々を幸せにはできない。この両方をどう保つか、いつの時代も問われているのです。

『ダイの大冒険』は、この難しいテーマを子ども向けの物語として描いていました。そして大人になった今、そのメッセージは決して色あせていないと感じます。

おわりに

「力なき正義は無力であり、正義なき力は圧制である」。この言葉は漫画や物語の世界だけでなく、現実の国際社会にも深くつながっています。

私たちは「力こそ正義」という暴力の論理を否定しつつも、「力のない正義」が無力であることも認めざるを得ません。その両立をどう図るかが、人類の平和にとって大切な課題ではないでしょうか。

読者のひろば

あなたの夢買います

古川 加代子

伊豆高原駅の一つ先北川駅付近に材木屋さんがある。店先に、形や大きさの違う板の切れ端が入った段ボールがあり、一枚30、50、100円と値札が付いていた。無人販売になっている。

腰掛用の丸太、きれいにカンナを斯けた大きさの違う組板や表札。その他にも色々な形に削って、絵や文字を書き入れた案内板なども棚に並んでいた。

そして「あなたの夢買います」社長と書いた紙があり、箱にメモ用紙とペンが入っていた。アイデア募集中である。小さめの組板に足を付け、そのまま握り寿司を乗せれば、自宅が寿司屋になる。工夫次第で生活が楽しくなりそうだ。

次女は、時々この店を利用して修繕をしたり、ペランダの椅子やテーブルも手作りだ。私も組板を買って、箱に50

0円を入れた。

ここ北川には、わさび漬けを買いに来る。都度、道路際に置かれた卵のケース棚から卵も買う。200円（6個）と300円（10個）に分かれていて、コインを入れて開ける。その先の野菜棚も覗く。ダイコンやホウレンソウ、レモン、ミカン、キウイなど100円、200円と安い。無人販売所用にいつも小銭を持ち歩く。



静かな村で、ほとんど人に会わない。コンビニもスーパーもないようだ。余った野菜や果物を並べて置けば、助かる人もいるだろう。これも物々交換だ。坂を下りれば海に出る。海岸には露天風呂もあり、のどかで、平和で心が休まる。



編集余話

世界の平和と繁栄に貢献できるのはドナルドだけ、とは我が耳を疑った。その高市首相は国家主義、戦前回帰、軍事主義にひた走る。平和憲法9条が目の仇だ。軍事と戦争を憎む人々は憲法記念日に集った。当誌85号も反戦、反軍事の原稿を募り、特集した。清水さんの要請に応じて当誌の【視点】に掲載。沖繩と無縁でも戦跡ガイドを務める井出さんは裏表紙に寄稿。知る人は少ないが空襲被害者を救済する法案作りに汗を流す黒岩弁護士、そして憲法集会参加の記録等々。

小誌の父も徴兵に取られフリーピンで捕虜になり戦後帰国できた。その父は「人類全員が武器を持つのを拒否したら世界から戦争は無くなるのに」と語っていた。

戦死した人こそが最大の被害者だから物言えぬ人の分まで、生きている者は反戦を訴える仕事があると私は思う。然るにウクライナ侵略以降に元自衛官と称する軍人がテレビにしたり顔で解説している

が、彼らの誰一人「平和を守る為に止む無く武器を持つ」と語った人を私は寡聞にして知らない。

女性自衛官が自民大会の壇上で君が代を高唱する——自民党は恥ずかしくもなくここまで戦前回帰したかと恐ろしくなる。日本人は、人類は戦争から、武器から遠ざかることを最優先すべきだ。

編集後記

（編集員A）読者から時々多彩な人からの投稿ですねとおほめの言葉を有難く頂きます。

今回も初めて書いていただいた方が7人。中には読者からの紹介でお願いした方も。皆さんの知人、周りで本誌に寄稿していただけた方がおられたら是非紹介して下さい。

日本企業は死の商人になるなどの訴えに共鳴して【視点】として呼び掛けました。沖繩に縁も無かった井出佳代子さんの沖繩報告は身につきまされる思いです。

坪田県議のユニークな活動

を読んでいたら、TVでも車椅子ラクビーのドラマが日曜の9時からみることができた。黒岩弁護士の空襲被害者救済法案——そんなことが実際可能なのかとも思ったりもします。

（編集員B）前回衆院選＆中国特集号の発行を終えて、通常三か月後の5月末発行となるとところが、今回は配布予定もあって、原稿締め切りが4月末で校了が5月のGW明け……ということで、編集員はGW返上で原稿レイアウトおよび校正まで一気に行いました。

「これはとても間に合わない！」と印刷業者が、GWの二日（5・6日）を返上して協力してくれることになり、なんとか間に合った次第です。印刷業者の皆様、ありがとうございました。主宰者に代わり、お礼申し上げます。やれやれ……



沖縄を知るといって

沖縄の問題は私たち日本人全員の問題である

沖縄県糸満市 平和ガイド 井出 佳代子

私は今、沖縄戦終焉の地である沖縄県糸満市で平和ガイドとして活動している。「平和ガイド」はどんなことをしているのかというと、沖縄戦の戦跡を巡り、そこで何があったのかという歴史の事実と体験者の証言を伝え、戦争になるとどんなことが起こるか、そして今に至るまでどんな傷跡を残しているのかを説明しながら、戦争とは何か、平和とは何か、命とは何か、といったことを自分ごととして考えるきっかけを作る、いわば平和の種まきをする仕事だと私自身は捉えている。

そもそも神奈川県川崎市出身の私が縁もゆかりもない沖縄でなぜ平和ガイドをしているのか。2012年9月、それまで21年間暮らした長野県から沖縄県に移住し、住んだ場所がたまたま糸満市だった。それまでも沖縄に関心がなかったわけではなかったが、沖縄戦についてはごく一

般的な知識しかなかった。ここに住むのだからせめて沖縄戦を知らなくては、と勉強を始めた。平和ガイドという存在を知り、いくつかの平和ガイド団体で養成講座を受けた。勉強会にも出かけた。沖縄戦だけを学んでもダメで、琉球の歴史も知らなければと、次から次へと課題が出てくる。そしてやっと気がついた。県外に暮らす私が「日本は平和だ」と思っていたその齟齬のすべてが沖縄にあったということに。だからそのことを伝えなければ、という思いが強くなった。



平和の礎と平和祈念資料館

450年続いた琉球王国を1872年に明治政府が解体して琉球藩とし、1879年には廃藩置県で沖縄県へ（琉球処分）、その後「富国強兵」「殖産興業」のスローガンのもと、沖縄は日本の近代化体制に組み込まれた。沖縄では他の植民地同様に日本への同化政策が強力に押し進められ、その中で日清戦争、日露戦争へと突き進んでいった。そして1945年に沖縄戦を迎えることになる。

沖縄県民の生活の場は日米両軍が戦う戦場となつて多くの住民が巻き込まれ、県民の4人に一人という多大な犠牲を出した。その経緯から、沖縄では「軍隊は住民を守らない」という教訓を得、また二度と戦争をしてはいけないという強い思いから、戦争体験者は自身の凄まじい体験を私たちに伝え、「戦争は絶対にダメだ」と教え続けてくれる。沖縄では戦後もすぐに復興へと舵を切れたわけではなかった。人々は収容所に入れられ、その間に米軍の基地のために土地を奪われ、故郷を失った人たちも多い。また日本からは切り離されて、27年



平和の礎

もの間、米軍の施政下で人権も保障されない生活を送った。だからこそ「戦争はしない、

基本的な人権は普遍的・絶対的なものである」と謳う日本国憲法を持つ日本へ復帰したいと願ったのも当たり前の話だ。果たして祖国復帰後、沖縄の人たちの願いは叶ったのだろうか？戦後81年になつても広大な米軍基地は残り続け、沖縄の美しい海を埋め立てて新基地建設も行われている。

ここ数年では与那国、宮古、石垣といった島々に自衛隊基地が作られ、次々にミサイルが配備されている。また米軍基地があるが故の被害も非常に多い。1995年の少女暴行事件では沖縄中が怒りに燃えたが、今に至るまでも暴行事件は絶えることがない。2016年には当時20歳の女性がランニング中に襲われ殺されるという事件もあった。ところがどんな凶悪犯罪があつ

ても日米地位協定という不平等条約のせいで正しく処罰できないという現実がある。

沖縄の問題と言われるものはすべて沖縄戦から地続きだと思ふ。日本が本土の安全保障の形として沖縄を差し出して米軍基地や自衛隊基地を沖縄に集中させた。今も南西シフトという名で沖縄を含む南西諸島を最前線に本土を守るうとしてしている。日米地位協定の改善も遅々として進まないため、基地由来と言われるPFAS汚染にしても基地内への立入検査もできない。

いまだに命を脅かされ続けている沖縄。沖縄が平和にならないうちは日本は平和だということではできないと思う。だからぜひ沖縄の現実を見てほしい。沖縄戦を知ってほしい。そして沖縄が真に平和な島となるためにできることをみんなで共に考えてほしい。沖縄の問題は私たち日本人全員の問題であるのだから。



平和の火